

大学生の高齢者施設における交流活動の意義について

由川 茅成実 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)

指導教員 村瀬 陽介

キーワード：交流活動，地域連携，高齢者施設

1. 緒言

B 大学では、10 の特色の 1 つとして「スポーツ大学の地域貢献と産・官・学連携」を掲げている。2005 年の中教審の答申における大学の機能のうちの一つとして「社会貢献機能（地域貢献等）」が位置づけられた今、様々な大学において、公開講座の開催や施設開放などの地域連携を積極的に進めてきた。その中でも、一方的な連携ではなく、学生たちと地域・自治体とが結びついた活動や、大学と地域・自治体がそれぞれの資源を相互に活用した活動を展開することで、人づくりや教育力の向上、地域の課題解決・活性化などにつなげていくことが求められてきた。（せたがや自治政策研究所, 2010）そこで、本研究では、B 大学地域スポーツコースの S 教授のゼミ活動において実施されてきた、高齢者施設での学生と施設利用者の交流活動の意義と重要性について、大学と地域との交流という視点から検討することを目的とした。

2. 研究方法

元 B 大学地域スポーツコースの S 教授と、対象とした高齢者施設の関係者であり、交流活動にも協力していただいた N 氏の 2 名にインタビュー調査を行った。また、S 教授のゼミに所属し、交流活動に参加していた 3 名の学生にも記述式のアンケート調査を行った。

3. 結果・考察

1) S 教授と N 氏のインタビュー調査より

この交流活動は高齢者が若い人と交流することで元気になってほしいというねらいであったが、実際に交流活動を行う中で、施設利用者は、若さを吸収でき、身体を動かすことで刺

激が与えられた。また、学生がレクリエーションの企画・運営に携わったことで、人前に立つことに慣れ、企画する力や、リーダーシップが身につくなど、学生にとって、活動を通した多くの学びがあった。

2) 学生のアンケート調査より

交流活動を行って、施設利用者の健康維持や、パワーを与えることができたと感じている以上に、学生が活動の中心となることで、社会に出て必要な力が身についたり、知らないことを知れたり、学生自身の「学び」につながったと感じる意見が多かった。地域貢献のためにと参加した活動だったが、結果的に自身が活動を通してあらゆる力を身につけることができたのであった。

4. まとめ

本研究の結果から、交流活動によって、高齢者の生活の質の向上になるだけでなく、学生がリーダーシップなどを身につけられることが明らかとなった。学生が地域活動に参加することは、高齢者への一方的な貢献ではなく、高齢者と若者との交流の需要と大学の教育活動を相互に活用した意義のあるものであると考えられる。また、これからの高齢化社会において、高齢者を地域で支えていくために大変重要な取り組みであることがわかった。

引用参考文献

せたがや自治政策研究所 (2010) 大学連携のあり方、せたがや自治政策報告書 3 : 1-67.